

岡山第2工場に新倉庫棟

在庫スペース不足に対応

桂スチールは岡山第2工場（岡山県備前市）の隣接地に新倉庫棟を建設しているが、9月末に完成する見込み。新倉庫はBHなどの製品や厚板母材の在庫用で、保管能力は母材で約2千〜3千ト。倉庫棟の屋根には太陽発電を設置し、発電した電力は自家消費する予定。

同社は岡山第1工場、岡山第2工場、岡山第3工場、岡山第5工場、友延工場、玉野工場・玉野第2工場を有し、BHの製作、建築向けの鋼板加工を行っている。ただ、ここ数年はBH製作がフル操業となる一方で、製品の引き取りは工事の進捗状況から延期されるケースもあって、在庫スペースが不足ぎみとなっていた。

こうしたネックを解消するとともに、品質管理面の維持・強化のため、新倉庫を今年5月から建設している。建築面積は19層×85層の約1615平方メートル。付帯設備は天井クレーンが4基（35ト、20ト、10ト、4・5トをそれぞれ1基）。

来期は売上げ150億円目標

今期は増収増益の見込み

桂スチールは、来期（2024年9月期）の売上高を今期実績見込み比1割減の150億円前後と想定、経常利益については黒字継続を目指す。国内の鉄骨需要が低迷し、回復が来年後半と見ているため、切板とBH（ビルトH形鋼）の製作はともに同1割減の年間5万4千ト前後を見込んでいる。生産効率の引き上げ、歩留まりの向上を図ることで、一定の利益確保を目指す。

今期（23年9月期）の業績は売上高で170億円前後と22年8月期比微増、経常利益は増益となる見通し。BH製作量は年間6万ト、切板も年間6万ト前後と同横ばいの方向だが、22年9月期よりも価格を改善できたことで売上げの微増につながる見込み。また、母材は高値で推移し、電気代やガス代、人件費なども上昇したが、自動化や省力化を進めたこと、売電など営業外の収益もあって増益となる方向。

ただ、来期は国内の鉄骨自体が中小案件を中心に落ち込んでおり、主力のBHの受注も低迷傾向にある。このため、数量を追う受注は可能な限り避け、収益重視の受注を展開していく。とくに、大型サイズ、長尺物、異形物など難易度の高い製品の比率を増やす。

コスト面では工場の自動化、省力化を一段と進め、さらなる生産性の向上を図る。材料面では歩留まりを上げるとともに、在庫の最適化を進める。事務部門もシステムを活用し、迅速化・効率化を行う。